

社団法人 日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

発行人 赤川安正 編集 広報委員会

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



Letter for Members No.18 2005

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/> 2005.8.10 発行

認定医制度から専門医制度へ

《コンテンツ》

認定医制度から専門医制度へ	1,2
第114回学術大会に新潟でお待ちして います!	2
第115回学術大会へのご参加を!	2
日本歯学系学会連絡協議会について	2,3
社会連携委員会から	3

各賞受賞者の声	3,4
関連学会報告	4-6
第114回学術大会せまる!	7
第115回学術大会のご案内	7
支部学術大会のご案内	7
関連学会のご案内	7,8
社団法人日本補綴歯科学会理事	8

専門医制度の施行に向けて

社団法人日本補綴歯科学会は、平成17年5月13日に開催された定例総会で、専門医を認定する団体として申請を行うことが承認されました。その後の申請に向けての準備状況を報告いたします。

本学会が厚生労働省から専門医資格認定団体として認可されるには、まず厚生労働省が定める基準を満たす必要があります。基準としての9項目のうち、本学会は唯一「医師または歯科医師の専門性に関する取得要件を公表していること」を満たしていません。

専門性に関する取得要件を明らかにするには、専門医制度に関する規則、施行細則を制定して、専門医制度が施行されている必要があります。また、専門医資格認定団体の申請には、事前に日本歯科医学会認定医・専門医制協議会で審査を受けることになっており、必要な書類を整える必要があります。

そこで、専門医制度検討委員会では専門医制度施行に向けて、認定審議会、医療問題検討委員会とも連携して「専門医制度規則、施行細則(案)」について検討してきました。この間、3つの原案

を作り、理事、代議員の先生方からアンケートでご意見をいただきました。最終案は、現行の認定医制度規則・施行細則をベースにして、すでに専門医資格認定団体となっている他学会とのバランスや、専門医としての診療技量の国民への担保などを考慮して作りました。現在の認定医制度との主な相違点は、認定に必要な研修単位数において治療終了症例による単位数が増えていることです。同時に、開業の先生が資格を更新しやすいように配慮してあります。また、専門医制度規則を施行する時点で認定医の資格を有していた人には継承措置が、平成18年3月31日までに認定審議会で審査に合格した人には移行措置が適用されます。

一方、専門医の名称は「補綴歯科専門医」として申請することとなりました。名称は患者さんが内容を理解しやすいことが重要とされていますので、「補綴歯科」が国民に周知されるような活動を早急に展開していく必要があります。

8月7日に開催される臨時総会では、専門医制度規則・施行細則、専門医資格認定団体にかかわる基準該当届などの申請に必要な書類に関して、

社員（会員）の先生方からご検討いただく予定となっています。

最後となりましたが、諸般の事情から、専門医制度の早期確立が本学会にとってきわめて重要との認識のもとで、委員会活動を進めてきましたので、社員（会員）の皆様には情報が届きにくかった面もあったかと思いますが、ご理解のほどお願い

い申し上げます。

なお、歯科医療の専門医制度とその実施、専門医資格取得に関しては、藍 稔先生が「歯科医療の専門医制度」、日本歯科医師会雑誌第 58 巻第 2 号、2005 年 5 月に詳しく解説されていますので、参照してください。

専門医制度検討委員会 委員長 野村修一

第 114 回学術大会に新潟でお待ちしています！



大会長 河野正司

（社）日本補綴歯科学会第 114 回学術大会が 10 月 1 日（土）、2 日（日）の日程で新潟市で開催されます。信濃川の河岸に建つ朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンターにぜひお越し下さるよう皆様にご案内申し上げます。

本大会では、前大会に引き続いて「咬合・咀嚼が創る健康長寿」をメインテーマとして掲げ、歯科補綴学の現状を break through するために、特別講演は「めだか」に学ぶバイオサイエンスー補綴学のサイエンスのためにー」と題しまして、新潟大学副学長・自然科学系教授の濱口 哲先生にお願いし、シンポジウムとしては、「支台歯をふやすストラテジーー（歯の）移植とインプラントー 遊離端欠損症例を中間欠損状態に変化させるために」と、「歯科補綴のストラテジックプラン」の 2 セッションを予定しております。また研究教育研修として、「歯科補綴研究に役立つ統計学」と「PRP のスキルアップセミナー」を、さらに臨床教育研修には「全部床義歯の臨床スキルの向上」と題して諸先生方にご講演いただくことにしておりますので、先生方のお越しを新潟でお待ちしております。

第 115 回学術大会へのご参加を！

第 115 回大会を、来年 7 月 8・9 日（土・日）に、札幌で開催させていただきます。

本大会は年 1 回開催の初めての学術大会であり、今後の大会のあり方を問われるものと認識しております。まず重要なことは、内容を低下させ

ないことです。学術委員会との打ち合わせを十分に行い、質を担保しなければなりません。第二に、可及的に多くの参加者数を確保することです。学会運営の観点から、収支バランスを考慮しなくてはなりません。第三に、社団法人としての社会活動の実施です。社会連携委員会などと相談のうえで、人々の健康・福祉の向上に貢献するための市民公開講座を開講したいと思います。

7 月初旬の札幌は、まさに初夏です。梅雨もなく、美しい緑の中を爽やかな風が流れます。実に清々しい気候です。サケ、ウニ、毛ガニ、ホタテなどの魚介類、アスパラガス、メロン、バレイショなどの農産物も豊富です。どうぞ北の大地をご満喫ください。

皆様のご参加をお待ちしております。

大会長 平井敏博
準備委員長 越野 寿

日本歯学系学会連絡協議会について

日本歯学系学会連絡協議会
会長 赤川安正

日本歯学系学会連絡協議会（歯学協）は、会員（1 学会が 1 会員）相互の緊密な連絡を図り、日本学術会議における審議などに積極的に寄与するとともに、わが国の学術の発展と研究成果の社会への還元を図ることを目的として、平成 15 年（2003 年）9 月に設立されました。現在、歯学系の 70 の学会により組織され、科学に関するさまざまな情報を共有しながら、日本学術会議歯学系分野の委員会と協働して、歯学が責任をもつべき国民的課題を検討し、それらの解決策となる具体的提言を行いながら、日本歯科医師会、日本歯科医学会とともに社会活動を展開しています。

具体的活動としては、まず 70 名の会員（学会）の情報共有と交換に関してホームページを立ち上げ、各学会へのリンク、日本学術会議ニュースや各種情報を迅速に伝達しています。一例を挙げれば

ば、各学会が学術大会の日時をお決めになるときに有益な情報となっています。また、提言に関しては、歯学協がかかわった最初の日本学術会議の対外報告「咬合・咀嚼が創る健康長寿」（咬合学研究連絡委員会）を、よりわかりやすく国民に理解していただけるよう、「噛んで食べてこそ健康長寿」と題するリーフレットを作成、歯学協の会員である70の学会はもとより、関係の各団体やマスコミ関係に配布しています。会員の学会におかれましては、市民フォーラムなどで積極的にお使いいただくよう、必要があれば事務局に問い合わせ下さい。

さらに、歯学協の政策提言委員会から提出した政策提言案である「口腔環境を整え健全な睡眠を」「ガムタバコの蔓延防止に向けて一禁煙から脱タバコへ」「歯科用医療機器の安全性の確保を目指したデータベースの作成と提供」は、日本学術会議の歯学系の3研究連絡委員会合同提案の対外報告（案）として日本学術会議で審議され、本年7月21日に対外報告として承認されました。

本年度は、6月の総会で認めていただいたように、歯学協の活動の中における会員相互の情報交換や政策提言の立案と日本学術会議や社会への提案はもちろんのこと、これらに加えて、会員同士が合同する学術活動の連携事業の推進や、健康長寿・QOLの向上のための口腔の役割について、社会への情報提供を一層進めるべく、歯学協が開催する市民フォーラムや一般社会との共同事業も行いたいと考えています。また、国際会議の共同開催や歯学協の法人化を進めることなども計画しています。

歯学協は今後も、歯学の重要性を常に社会に訴えていくよう、活動を続けてまいります。歯学協へのご理解とご支援をこれからもよろしく願いいたします。

社会連携委員会から

社団法人としてスタートした日本補綴歯科学会において新設された本委員会では、学会活動で得られた成果を基盤とする歯科医療が、社会・国民の健康とQOLの維持向上にはたす役割を正確に人々に伝え、そして理解していただくための啓発活動を、地域や地域歯科医師会と連携しながら展開する準備を進めています。

その1つとして、生涯学習委員会や支部活動と

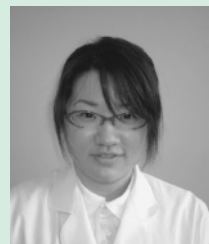
連携して市民フォーラムや市民講座等の開催を検討しています。また歯科関連の大学がない地域や認定医の少ない地域、すなわち歯科補綴医療の情報が少ない地域を対象に、地域や歯科医師会と連携をとりながら、市民フォーラムなどの開催に向け、草の根運動を展開する準備を行っています。さらに市民の方々に補綴医療をより良く理解していただくための啓発パンフレットを作成し、市民フォーラムの参加者やその他さまざまな機会を利用して、配布できるよう準備を進めています。

社員の皆様方、市民を対象とするフォーラムや講演などの依頼や問い合わせがございましたら、社会連携委員会にご一報下さいますようお願い申し上げます。

社会連携委員会委員長 沖本公繪

各賞受賞者の声

平成16年度日本補綴歯科学会奨励論文賞



連 直子

（愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座）

「口腔内におけるエナメル質切削表面の経時的变化に関する研究」

（補綴誌48巻1号 p84-93）

この度は、平成16年度日本補綴歯科学会奨励論文賞という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。受賞から2カ月以上経ちましたが、あらためて喜びをかみしめております。

本研究は、支台歯の前処置として切削されたエナメル質最表面の、口腔内での経時的な組織学的変化を観察したものであります。大学院4年間を

Nobel Biocare™

The World Leader In Innovative Esthetic Dental Solutions

Professor Brånemark (ブローネマルク教授)による、世界で初めて骨と結合するタイプのインプラント手術から今年で40年が経ちました。
Nobel Biocareではこの輝かしい過去の実績をもとに、これからもインプラントの正しい普及と、患者様の生活の向上につとめてまいります。

ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社 〒108-0075 東京都港区赤坂2-18-4品川三軒半1F
TEL. 03-6717-6191 FAX. 03-6717-6178
<http://www.nobelbiocare.com>

振り返ってみると、さまざまな失敗や困難の連続でありましたが、その都度、周囲の皆様方に支えられて本論文を完成させることができました。

本論文を執筆するにあたり、終始ご懇篤なご指導とご校閲を賜りました、愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座の田中貴信教授に深甚なる謝意を表します。また、貴重なご助言をいただきました東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面解剖学分野の山下靖雄教授、日本大学歯学部歯科補綴学教室の石上友彦教授に厚くお礼申し上げます。今回の受賞をバネとして、今後さらに有意義な研究活動に精進したいと考えております。

平成 16 年度日本補綴歯科学会 特定推進研究優秀論文賞



七田俊晴

(昭和大学歯学部高齢者歯科学教室)

「顔面皮膚上点の運動観測による下顎運動の推定」

(補綴誌 48 巻 5 号 p741-750)

この度、平成 16 年度日本補綴歯科学会特定推進研究優秀論文賞を受賞させていただき、ありがとうございました。社団法人になってからの初受賞を光栄に思っております。

これまでも下顎運動の解析は、さまざまな方法が考案されてきました。しかし多くの方法は、被検者へのセンサーの装着などにより生理的な運動を阻害するなどの問題がありました。今回私たちが考案した解析方法はモーション・キャプチャーシステムを用いました。近年 3D ゲームの製作などに用いられます。

顔面に光反射性評点を貼付し、外部から光を当てることにより皮膚上点の動きをコンピュータ上で再現し、その皮膚上点の動態解析から下顎運動を推定しました。それにより下顎切歯点の 15 mm までの開口量および上下方向の運動解析が可能であることが示唆されました。

今回の研究にあたり、終始ご指導賜りました昭和大学歯学部高齢者歯科学講座の佐藤裕二教授、下平 修講師、山縣健佑名誉教授に深く感謝いたしますとともに、高齢者歯科学教室員各位と研究にご協力いただいたすべての方に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

(社) 日本補綴歯科学会第 113 回学術大会 デンツプライ賞



Stegaroiu R

(Niigata University, Graduate School of Medical and Dental Sciences)

「Stress around a Dental Implant in a Model that Simulates Bone to the Trabecular Level」

(社) 日本補綴歯科学会第 113 回学術大会デンツプライ賞の受賞者に選出していただき、大変光栄に存じます。

今回の発表は、5 つの分野に所属されていたり先生の先生のご指導・ご協力をいただいた学際的な研究であったため、今まで以上に Real なコンピューターシミュレーションができました。研究の概要は、初めての試みとしてサルの焼骨のマイクロ CT データを用いて骨梁構造をシミュレートした精密モデルを作製し、従来モデル（骨梁を無視したもの）との比較検討を行いました。応力分析の結果により、従来モデルで予測できなかった過大な負担によるインプラント・骨の界面における広範な骨吸収現象が、精密モデルでは予測が可能になることは示唆されました。

大勢の先生方から今回のポスターについて、ご指摘、アドバイス、将来の展開に関するさまざまなご質問・ご希望をいただいたことを深く感謝しており、受賞者に選出されたこと以上にうれしく思っております。いただいたお言葉を心に留めて、この第一歩である研究をさらに発展させたいと思います。

関連学会報告

ICP—The 11th Meeting of the International College of Prosthodontists—

青いエーゲ海、海沿いに広がる白い建築物が印象的なギリシャのクレタ島にて Aris-Petros Tripodakis 大会長のもと開催されました。第 11 回の本大会には、300 近い演題発表があり、日本からも 100 名弱の参加者がありました。リゾート地で開催された本学会は、張りつめた緊張感のメイン会場とは逆に、時間が止まったかの様に感じられる海・プールでのリラックスした雰囲気が、

いかにもリゾートを感じさせるものでした。そんな学会を経験した参加者は、楽しい思い出ができたことでしょう。Welcome receptionでは、夕日が沈むエーゲ海を背に乾杯、Knossos & Cretan Village Dinnerでは、ギリシャの民族舞踊を輪になって踊りました（国籍、役職関係なし！）。第12回大会は古谷野大会長のもと、福岡で行われます。学会最後の夜には、Reception & Banquetが行われ、古谷野次期大会長よりご挨拶がありました。「福岡での再会を！」大きな拍手で閉会となりました。



(広報 金村清孝)

第6回日本口腔顎顔面痛懇談会

平成17年6月11、12日の両日にかけて第6回日本口腔顎顔面痛懇談会、第10回The Japan Academy of Orofacial Pain 共催学術大会が岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能制御学分野窪木拓男教授、東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野佐々木啓一教授を大会長として、岡山大学創立記念50周年記念館で開催されました。特別講演として徳島大学大学院神経情報医学の梶 竜児教授が「顎関節・口腔領域のボツリヌス治療」について、南カリフォルニア大学G. Clark教授が「Past, Present & Future of Orofacial Pain in the United States」について講演をされました。ともに最近の知見にあふれる魅力ある内容で、今後の顎関節症ならびに口腔顎顔面痛の臨床、教育、研究に大きな示唆を与えてくれる内容でした。その他シンポジウム2題、ランチオンセミナー、ワークショップと盛りだくさんの内容の学会でした。

Orofacial Pain の概念が顎関節症の臨床に取り入れられて十数年が経とうとしていますが、関連のある学会が共同で開催されることは、今後の研究の進展や臨床の情報の交換に有意義なものと思われれます。今後も2年に1度は共催の学術大会を

する方向で話が進んでいます。関係の先生方のご努力に敬意を表するとともに両学会がOrofacial Pain、口腔顎顔面痛の臨床、教育、研究のオピニオンリーダーとして歯科界を牽引していただきたいと思います。

(広報 佐藤博信)

第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会

第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会が、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科の大山紀美栄教授を総会長として、平成17年5月25日(水)、26日(木)に、東京の文京シビックホールにて開催されました。今回のテーマは「口唇口蓋裂の原因・治療・予後」で、関連する外科治療、矯正治療、補綴治療領域での口唇口蓋裂の長期管理症例を焦点の1つとし、特別講演、主題演題、一般演題(口演)、一般演題(示説)が行われました。

主題演題では、「口唇口蓋裂の長期管理症例—補綴」が取り上げられ(座長:谷口 尚先生、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)、「口唇裂口蓋裂患者における補綴治療終了後の長期経過観察」(飯田敏朗先生、東京医科歯科大学歯学部)、「口蓋裂患者の長期予後を考えた補綴治療」(石上友彦先生、日本大学歯学部)、「可撤性補綴装置による口蓋裂患者の咬合・咀嚼機能の回復と維持」(小野高裕先生、大阪大学大学院歯学研究科)と題する講演が行われました。近年の外科治療・矯正治療の進歩により、口唇口蓋裂患者に対する終末処置としての補綴治療の多くは、一般補綴治療に近づきつつあります。しかし、拡大・移動された歯槽弓および歯のリラプスは依然として考慮されなければならず、したがって補綴処置の設計は一般補綴以上に長期経過を踏まえたものでなくてはなりません。口唇口蓋裂の治療において補綴

美しさと強さの融合 'GC'

MFRナノハイブリッドテクノロジーの導入で
グラディアがレベルアップ 健保適用外



GRADIA FORTE

Total Esthetic Harmony NEW!

超高強度MFRナノハイブリッドタイプ
ジーシー グラディア フォルテ

医療用具承認番号 21700BZZ00065000号
発売元 株式会社 ジーシー / 製造元 株式会社 ジーシーデンタルプロダクツ

治療は依然として不可欠であり、治療後の長期的管理の重要性を再認識できる良い機会となりました。
(東京医科歯科大学 乙丸貴史)

第22回日本顎顔面補綴学会総会

第22回日本顎顔面補綴学会総会が、日本大学歯学部の上友彦教授を総会長として、平成17年6月16日(木)、17日(金)に、東京の日本大学会館にて、開催されました。特別講演、教育研修会、一般演題が行われ、一般演題では「機能評価」、「エピテーゼ」、「音声、その他」、「長期観察」、「インプラント」、「統計、その他」、「顎義歯」というセッションで、合計26題の発表がありました。発表8分間、質疑応答7分間で、本学会の伝統的ともいえる活発な議論が今回も繰り広げられ、質疑応答時間を大幅に超過する場面もありました。

特別講演は、日本大学歯学部の植田耕一郎教授による「口腔癌の摂食・嚥下リハビリテーション」と題するもので、口腔癌患者に限定せず、脳卒中患者も含めた摂食・嚥下機能障害を有する患者全般についての講演でした。

教育研修会では、「舌の再建」をテーマに(座長：水城春美先生、岩手医科大学歯学部)、「舌癌切除に伴う再建方法の選択」(川口浩司先生、鶴見大学歯学部)、「舌再建方法と後遺する機能障害」(鈴木規子先生、昭和大学歯学部)、「補綴治療による咀嚼・発音機能の回復」(隅田由香先生、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)と題する講演が行われました。なかでも隅田先生による講演では、発音や嚥下機能を補助する補綴装置を用いた臨床症例が示され、発音や嚥下機能の回復には、外科的アプローチのみならず、補綴処置が重要であることが示唆されました。

(東京医科歯科大学 乙丸貴史)

第29回日本頭頸部癌学会

第29回日本頭頸部癌学会が、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科の岸本誠司教授を大会長として、平成17年6月15日(水)、16日(木)、17日(金)に、東京の京王プラザホテルにて、開催されました。本学会は旧日本頭頸部腫瘍学会で、癌治療という目標に焦点が絞られた学会であり、特別講演、招待講演、シンポジウム、公開セミナー、教育講演、ランチョンセミナー、サテライトシンポジウム、ミニシンポジウム、一

般演題(口演、ポスター)が行われました。

17日に行われた公開セミナー「頭頸部癌術後の咀嚼嚥下のリハビリテーション」では、小村健先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)ならびに丹生健一先生(神戸大学大学院医学系研究科)の司会のもと、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士の立場からの講演がなされました。そのなかで顎補綴の立場から、谷口尚先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)が「顎顔面補綴」、「一般歯科補綴との相違点」、「手術後の機能的審美的障害」、「顎補綴治療に先立つ再建手術」という観点で、多数の症例写真を用いた講演を行いました。

日本頭頸部癌学会において、顎補綴による咀嚼嚥下のリハビリテーションが示され、チームアプローチの中での補綴治療の役割を伝える良い機会となりました。

(東京医科歯科大学 乙丸貴史)

第16回日本老年歯科医学会総会・学術大会

平成17年6月16日(水)、17日(金)に、第16回日本老年歯科医学会総会ならびに学術大会が、個性的なホールとシンボリックなガラス棟からなる東京国際フォーラムにおいて、大会長：稲葉繁教授(日本歯科大学総合診療科)のもと開催されました。今回は2年に1度の老年学会との共催の年にあたり、第24回日本老年学会として6学会(日本老年歯科医学会、日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会)が合同で開催され、各専門分野から多数の先生方が参加されました。

特別講演Ⅰ「高齢者の生きがいとユーモア」(アルフォンス・デーケン名誉教授、上智大学)、特別講演Ⅱ「介護予防と老年歯科医学」(辻一郎教授、東北大学大学院公衆衛生学分野)、教育講演「高齢者の低栄養」(葛谷雅文助教授、名古屋大学大学院発育・加齢医学講座老年科学)、シンポジウム3題、ランチョンセミナー3テーマ、一般演題50題、6学会合同のポスター発表10題、一般のポスター発表27題と大変多くの発表が行われました。各会場では、高齢社会におけるさまざまな問題点に対する活発なディスカッションがあり、2日間の大会は盛会裡のもと終了しました。

(昭和大学 細野由美子)

ニュース

補綴誌のMEDLINE掲載とPRPのJ-STAGE掲載について

会員の皆様にはすでにご報告いたしました
が、補綴誌は48巻5号からMEDLINEに
掲載されています。論文が掲載された方はご
自身のお名前を是非ご確認ください。

また、会員の皆様にはPRPのバックナン
バーがJ-STAGEで全文閲覧できるよう
なっています。掲載論文の外国語引用文献の
多くはMEDLINEなどの文献データベースに
リンクしております。是非ご自身のご研究に
お役立てください。

詳しくは補綴誌49巻2号をご参照ください。

第114回学術大会せまる！

メインテーマ：咬合・咀嚼が創る健康長寿
開催日：平成17年10月1日（土）、2日（日）
会場：朱鷺メッセ・新潟コンベンションセン
ター（〒950-0078 新潟市万代島6-1
TEL：025-246-8400）
大会長：河野正司（新潟大学大学院医歯学総合研
究科摂食機能再建学）
準備委員長：小林 博

連絡先：〒950-0915 新潟市鏡西2-35-22
株式会社三共堂コンベンション事業部
内（社）日本補綴歯科学会第114回学
術大会運営事務局（担当・野沢）
TEL：025-255-0014
FAX：025-241-8590
E-mail：jps2005@dent.niigata-u.ac.jp
<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/prosth1/jps/>

第115回学術大会のご案内 一年1回化 初めての学術大会です！

開催日：平成18年7月8日（土）、9日（日）
会場：札幌コンベンションセンター
大会長：平井敏博（北海道医療大学歯学部歯科補
綴学第一講座）

連絡先：〒061-0293 北海道石狩郡当別町金
沢1757 北海道医療大学歯学部歯科

補綴学第一講座〔担当：越野 寿（準
備委員長）〕

TEL・FAX：0133-23-2846

E-mail：koshino@hoku-iryu-u.ac.jp

支部学術大会のご案内

西関東支部

開催日：平成18年1月8日（日）

会場：パシフィコ横浜

大会長：福島俊士（鶴見大）

連絡先：〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区
鶴見2-1-3
鶴見大学歯学部歯科補綴学第2講座
（冠橋義歯学）
TEL：045-581-1001
FAX：045-584-4588

東関東支部

開催日：平成18年2月19日（日）

会場：幕張プリンスホテル（千葉）（予定）

大会長：岸 正孝（東歯大）

連絡先：〒261-8502 千葉市美浜区真砂1-2-2
東京歯科大学歯学部補綴学第三講座
TEL：043-270-3942
FAX：043-270-3943

関連学会のご案内

第35回日本口腔インプラント学会総会・学術大会

開催日：平成17年9月17（土）、18日（日）

Happy Smiles & Heartful Communication

デンタルエステをはじめませんか



- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイブリッド セラミック
エステニア C&B



■ 標準価格 スタンダードセット 128,000円
■ 医療機関承認番号 21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社

販売元 株式会社モリタ 東京都中央区上野2-1-5 〒113-8613 TEL:03-38314611
大阪本社 大阪府大阪市東区3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2825

● 掲載資料の発行価格は、2005年4月21日現在のものです。
※ 標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-plaza.com

会 場：弘前市民会館，弘前文化センターほか2
会場

大会長：木村博人（弘前大学医学部歯科口腔外科
学講座）

詳 細：http://www.jsoi.2005.umin.jp

大会事務局：TEL：0263-51-2231

FAX：0263-51-2204

53rd Annual Meeting of the American
Academy of Maxillofacial Prosthetics

第 17 回日本咀嚼学会学術大会

開催日：平成 17 年 9 月 22 日（木）～24 日（土）

場 所：松本市中央公民館（M ウイング）

大会長：森本俊文（松本歯科大学総合歯科医学研
究所）

開催日：平成 17 年 10 月 22 日（土）～25 日（火）

場 所：Westin Century Plaza Hotel and Spa
（Los Angeles, California）

大会長：Tom Vergo

詳 細：http://www.maxillofacialprosth.org/

E-mail：res@res-inc.com

社団法人 日本補綴歯科学会 理事



赤川安正理事長



平井敏博副理事長
法人運営委員会
委員長



井上 宏副理事長



矢谷博文理事
庶務担当



佐々木啓一理事
学術担当



志賀 博理事
編集担当



森戸光彦理事
財務担当



古谷野 潔理事
国際渉外委員会
委員長



五十嵐正理事
用語検討委員会
委員長



市川哲雄理事
医療問題検討
委員会委員長



田中貴信理事
会則等検討委員会
委員長



石橋寛二理事
広報委員会委員長



櫻井 薫理事
教育問題検討
委員会委員長



清野和夫理事
生涯学習検討
委員会委員長



古屋良一理事
認定審議会委員長



沖本公繪理事
社会連携委員会
委員長



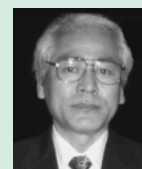
野村修一理事
専門医制度検討
委員会委員長



寺田善博理事
ガイドライン作成
委員会委員長



福島俊士理事
社会保険委員会
委員長



長岡英一理事
Ad hoc（特別）
委員会委員長

学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会

委員長 石橋寛二 副委員長 佐藤博信

委員 北川 昇 田中昌博 谷口 尚 細木真紀

幹 事 金村清孝

TEL：019-651-5111（内 4127），FAX：019-654-3281

E-mail：kohojs@iwate-med.ac.jp

〒020-8505 岩手県盛岡市中央通 1-3-27

岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

この Letter for Members は、
（社）日本補綴歯科学会の新しい
流れを発信し続けます。

皆様の“補綴”への思いをお寄
せください。

石橋寛二